

フ レ ス コ

# 国産杜仲茶葉粉末を提案

## 「HTP-1」に含有の成分で有効性

健康食品素材の販売などを行うフレスコ（本社 愛知県、江藤啓介社長、(電)052-253-8225）は青汁素材として、国産杜仲茶葉粉末「HTP-1」を提案している。杜仲茶葉の中でも、「HTP-1」の品種で発見された、「ユーコミシンA」と呼ばれる成分には、近年の研究で、腫瘍細胞の選択的阻害効果がある可能性が示唆されているという。

杜仲は、トチュウ目トチュウ科を構成する唯一の種。600万〜6000万年前には、さまざまな種類の杜仲が繁殖していたとされており、氷河期をたくましく生命力で生き延びた杜仲は、「現代の生きた化石植物」とも呼ばれているという。杜仲の樹皮、葉、雄花、種子などには健康効果があることが以前から知られており、樹皮は日本国内でも医薬品に指定されている。

「HTP-1」は、無農薬・国産の特級杜仲茶葉を100%使用した粉末素材。特殊な加工を施すことにより、有効成分の棄損を極力抑えている。同社では、ゲニポシド酸やアスベルロシドの量が、市販の杜仲粉末よりも、数倍多く含まれていることを確認している。近年の研究報告の中には、杜仲葉に含まれる成分「ユーコミシンA」に、抗腫瘍活性が見つかったとするものもある。

同研究は、茨木大学と横浜国立大学が共同で行ったもの。海外の学術誌「サイトケミストリー」に、論文が掲載されている。同論文によると、腫瘍の再発・転移の重要な原因と考えられる「がん幹細胞（CSC）」に関して、研究を行ったという。抗CSC活性に関するスクリーニングを行った

結果、杜仲葉由来の「ユーコミシンA」が同定されたという。同研究では、ユーコミシンAが、選択的な抗CSC活性を示すことや、人工がん幹細胞による腫瘍球の形成を阻害する（と）を確認。こうした結果から「ユーコミシンAは、CSCの幹細胞性と自己複製能力を無効化する薬剤の開発において、主要成分として貢献する可能性が示唆された」と結論付けている。

なお、同社では青汁素材として他に、専売品である「琉球しまぐわ」を提案している。同素材については、糖吸収抑制の優れた活性を持つことが、ヒト試験で確認されている。同素材については製法特許も取得済みだ。